

開館5周年記念展

2017年11月15日(水) — 2018年1月21日(日)

時間 = 10:00 — 18:00 (入場は17:30まで)

休館 = 月・火曜日 (但し、祝日は開館)、年末年始 (12/30 — 1/5)

料金 = 無料

主催 = きょうと障害者文化芸術推進機構 (京都府)、みずのき美術館 協力 = MIZUMA ART GALLERY

と き の の み ず
し O JUN
た 日 比 野 克 彦
わ 中 原 浩 大

みずのき美術館



みずのき美術館は、開館から5年目を迎えました。開館以来、所蔵作品であるみずのき絵画教室の作品に向き合いながら、アート表現とは何か、あるいはアートがもたらすこととは何かについて考えつづけてきました。そして、考えるときのパートナーにアーティストを積極的に迎え、創造することへの感覚的な共感を基本に据えることにより、多様な考察の糸口を得るよう努めてきました。

さて、「みずのきとわたし」という、作文の題名になりそうなこの素直な名前の展覧会に、3名のアーティストが集いました。長年にわたる制作活動のある時点で、重い知的障害のある人たちの絵画と出会うことになった3名それぞれの応答に、わたしたちも対峙したいと思います。



高橋滋 所蔵=みずのき美術館



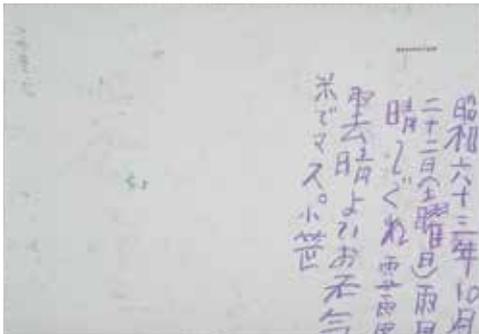
中原浩大 撮影=福永一夫



O JUN © O JUN, Courtesy Mizuma Art Gallery



日比野克彦



小笹逸男 所蔵=みずのき美術館

O JUN

1956年、東京生まれ。画家。油彩や水彩、クレヨン等で日常身のいろいろを描いている。錫と鉛を鋳造した鉛筆でライブドローイング等も行う。近年の展覧会では、『描く児』（府中市美術館、2013年）、『まんまんちゃん、あん』（国際芸術センター青森、2016年）、『飛び立つ鳩に、驚く私』（ミヅマアートギャラリー、2016年）、『O JUN × 棚田康司：聞（せめぐ）』（伊丹市立美術館、2017年）等。2010年より東京藝術大学に勤務。

日比野克彦 Katsuhiko Hibino

1958年、岐阜県生まれ。アーティスト、東京藝術大学美術学部長・美術学部先端芸術表現科教授。岐阜県美術館館長。1984年東京藝術大学大学院修了。1982年日本グラフィック展大賞受賞。1986年シドニービエンナーレ参加。1995年ベネチアビエンナーレ参加。2003年越後妻有アートトリエンナーレ参加。2013年瀬戸内国際芸術祭参加。2013-15年六本木アートナイト、アーティストックディレクター。2015年より東京都等が展開する「TURN」の監修を務める。

中原浩大 Kodai Nakahara

1961年、岡山県生まれ。活動当初から様々な種類の素材やメディアを駆使しながら制作された作品は高い評価を受け、90年代以降は、レゴ・ブロックやプラモデル、フィギュアなどの既製品を用いて、美術作家としての自身のあり方を問い直そうとする作品を発表。95年以降は作家活動から距離を置いた時期を経て、美術の範疇のみにとどまらない幅広い活動を展開している。2016年より「みずのき作品群の保存とアーカイブ作成への協力と作業支援」（京都市立芸術大学特別研究助成）に参加。

◎ 関連イベント

HIBINOと「みんなの美術部」@ 亀岡

2018年1月8日（月・祝）14:00-16:00

日比野克彦とともに、色んな見方で本展覧会を鑑賞します。
詳細は、美術館ウェブサイト・SNSをご確認ください。



堀田哲明 所蔵=みずのき美術館

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18
JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅下車南口より徒歩8分
Tel. 0771-20-1888 Fax. 0771-20-1889
www.mizunoki-museum.org
※美術館に駐車場はございません。
公共交通機関をご利用ください。

※一部、展示作品と異なる場合があります。



岸ノ上卓二 所蔵=みずのき美術館